

令和2年度 第3回 横浜市介護保険運営協議会 議事要旨	
日 時	令和2年10月8日(木) 14:00~15:00
場 所	神奈川産業振興センター 13階第1・第2会議室
出 席 者	山崎委員(会長)、小園委員、小林委員、辻委員、西田委員、山口委員、山田(初)委員、中村(美)委員、小倉委員、佐藤委員、杉山委員、武安委員、長場委員、中村(香)委員 計14名
欠 席 者	柳井委員、山岸委員、谷村委員、延命委員、山田(真)委員、吉田委員 計6名
開 催 形 態	公開(傍聴者2名・報道関係者0名)
議 題	1 議題 (1) 第8期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画(よこはま地域包括ケア計画)の素案について 2 報告事項 (1) 第7期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 令和元年度取組状況
議 事	1 議題 (1) 第8期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画(よこはま地域包括ケア計画)の素案について (事務局)「資料1-1 第8期計画素案」「資料1-2 パブリックコメントの実施について」を説明。 (小倉委員)当事者団体の代表として意見を述べさせていただきたい。 素案24頁の施設や住まいの整備について、特別養護老人ホーム等の整備目標が掲げられているが、単年度毎に、利用実績等を踏まえた計画の遂行をお願いしたい。 また、27頁の介護人材の確保について、確保に向けた取組については、スピード感や施策のインパクトを重視して取り組んでいただきたい。新型コロナウイルス感染症による影響が、市内の事業所でも出ているが、その対策において、市から支援をいただいていることに感謝している。 (山口委員)素案の10頁の「介護予防の取組推進」について、ポイント制度等の導入との記載があるが、これは既存のシニアボランティアポイントのことを指すのか。また、11頁の介護予防の普及啓発の中に、フレイル予防・ロコモ予防の違いを明確にしてほしい。 (事務局)ポイント制度については、シニアボランティアポイント制度とは別に、横浜市における介護予防等を目的とした通いの場に参加した人の確認や、参加意欲向上の目的で、新たに実施を検討したいと考えている。フレイル予防について、フレイルは主に加齢に伴い心身が虚弱状態になっていることを指している。ロコモ予防については、身体機能の維持・向上が主な目的となっているが、フレイル予防は口腔状態や栄養状態、社会参加などのつながりなども含めている。本市としても、加齢に伴う心身の衰えに対して、フレイル予防のより幅広い視点を以って取り組んでいきたい。

(山崎会長) フレイルやロコモなどについては、語句の説明を追加してみてもどうか。

(中村(美)委員) 素案の13頁のプロボノ事業について、面白い事業ではあるが、言葉が独特でわかりにくい印象がある。プロボノに関する語源だけでなく、「成果物の作成などの地域活動団体への支援を通じて、地域課題の解決に参加する取組」のように直接的な表現で説明してみてもどうか。また、素案の35頁の介護予防交流拠点の防災力向上に向けた取組について、もう少し具体的に記載してもどうか。

(事務局) 介護予防交流拠点の防災力向上に向けた取組については、地域の通いの場などの介護予防に資する拠点に対して、外部講師に防災に関する出前講座を実施し、地震発生時の避難行動の確認や、避難経路の確保のための家具の配置換えの提案など、地域の交流拠点の施設面での防災力の向上を図ることを目的としている。記載内容については、計画原案に向けて内容を検討していきたい。

(中村(美)委員) 素案の31頁のICTの活用について、特別養護老人ホーム等におけるオンライン面会は、家族が施設に来所した上で面会することが前提となるか、それとも自宅等の施設外から面会できる場合も想定しているのか。事業の方向性を知りたい。

(事務局) オンライン面会については、施設によって手法は様々となっているが、市からの補助において制限は定めていない。

(中村(美)委員) 素案の26頁の高齢者施設・住まいの相談センターについて、施設サービス等の詳細を確認できる良い取組だが、センター自体は上大岡にあるため、市民全員にとって利用しやすいアクセスとは言えない側面もある。センターでの相談を、区役所とのオンラインを通じた相談などを実施することなどは検討していないか。

(事務局) 高齢者施設・住まいの相談センターについて、電話相談や出張相談といった取組は実施しているが、現時点ではオンラインでの相談対応は予定していない。様々な状況を考慮して、検討していきたい。

(中村(美)委員) 安心の確保が素案の中でも明記されているが、安心については、本人の安心だけでなく、家族や地域の人の安心の確保も含めて必要になってくる。例えば、生活援助員の活動を高齢者用賃貸住宅に対してだけでなく、地域の一人暮らし高齢者にも拡大するなどの、取組が必要ではないか。

(小園委員) 介護や医療に従事している職員が、新型コロナウイルス感染症や、職場でのハラスメントなどに対して、安心して安全に働くための支援を充実させていくことで、人材の定着や質の向上を図ることができ、結果として利用者やその家族の安心にもつながるのではないか。

(小林委員) 昨年度、認知症の無料検診が実施されていたが、無料検診などの受診しやすい検診を第8期計画でも実施していくのか。また、認知症に関する理解の促進が必要になってくると思うので、検診と理解促進を並行して進めていただきたい。

(事務局) 認知症の検診は、「もの忘れ検診」として令和元年度にモデル事業として

	<p>実施しており、令和2年度もモデル事業として継続している。第8期計画期間となる令和3年度は、本格実施として検診可能な医療機関の拡大や事業の周知拡大に取り組んでいきたい。</p> <p>(山口委員) 素案の32頁の介護相談員派遣事業について、介護相談員の育成とあるが、研修の時間が増えたという話を聞いているが、この事業における充実のポイントについて詳しく教えて欲しい。</p> <p>(事務局) 介護相談員の派遣についての研修は対象施設の拡大等による充実を図っている。介護相談員の人数については様々な制約があるが、拡大する方針で進めていきたい。</p> <p>(山口委員) 研修は各区で実施していくということか。</p> <p>(事務局) 介護相談員の研修は、新規の際は市で一括して実施しているが、随時行う研修については区にて実施している。</p> <p>(武安委員) 新型コロナウイルス感染症の影響により、座学での研修が多く、実習ができていない。来年度の見込みは立てづらい状況ではあるが、介護支援専門員等への研修の充実に協力していきたい。</p> <p>(杉山委員) もの忘れ検診について、認知症の症状のある方を病院に連れていくために、とても有効的な事業である。地域の方がこの事業を知って、活用できるように周知等も含めて充実していただきたい。</p> <p>(佐藤委員) 武安委員も懸念している通り、研修の実施が困難な状況であり、地域のケアマネジャーの中でも知識の伝達がうまくいかず、新しい施策の内容の伝達や、マネジメントスキルの向上などに課題を感じている。研修の方法自体を集合研修に限らず、オンラインを含めて、様々な手法を工夫しながら、充実を図る必要がある。</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 第7期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 令和元年度取組状況 (事務局)「資料2 第7期計画 令和元年度取組状況について(サービス量等の計画値と実績値)」を説明。</p> <p>～意見無し～</p>
資 料	<p>資料1-1 第8期計画素案</p> <p>資料1-2 パブリックコメントの実施について</p> <p>資料2 第7期計画 令和元年度取組状況について (サービス量等の計画値と実績値)</p>
特 記 事 項	<p>今回は、来年1月28日(木)午後の開催を検討している。</p> <p>日程が確定次第、後日お知らせする。</p>